

谷如意 （註） 儒者。文政五年（三月十五日）近江國彦根生れ、明治二十八年十一月二十六日歿（二八三—一九〇五）。舊姓澁谷、諱鐵（鍊）臣、字百鍊、幼名駒一郎、通稱退一。號太湖、如意山人、醒庵等。江戸で林家の經學を學び、長州でオランダ醫學を修め、歸郷して醫を營む。文久三年登用せられて藩士の侍讀となり、諸と周旋して勤王派を導いた。明治元年藩の參政となる。廢藩後大藏大丞に任じ左院一等議官に累進し、六年致仕。七十歳を朱子學から陽明學に轉じ、西村茂樹の日本弘道會創設に當つては京都支部長となつた。

著書に、摘録『孝經塾本』（明治二十九年五月十六日枕易齋藏版、京都・文石堂）、『如意遺稿』全四冊（明治四十一年二月十日谷靜也・廣田眞太郎刊）等。